

平成 27 年度鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	スポーツ分野における鍼灸マッサージに関する 文献的調査
班長 氏名/所属機関	近藤 宏 / 筑波技術大学 保健科学部
班員 氏名/所属機関	泉 重樹 /法政大学 スポーツ健康学部 金子 泰久 /呉竹学園東洋医学臨床研究所 櫻庭 陽 /筑波技術大学 保健科学部 池宗 佐知子 /帝京平成大学 ヒューマンケア学部 藤本 英樹 /東京有明医療大学 保健医療学部 吉田 成仁 /帝京平成大学大学院 健康科学研究科 吉田 行宏 /明治国際医療大学 鍼灸学部 古屋 英治 /呉竹学園東洋医学臨床研究所
成果	
1.目的	本研究の目的は、スポーツ分野における鍼灸マッサージに関する文献を網羅的に収集・吟味し、統合することにより、スポーツ分野における鍼灸マッサージの有効性や安全性を確認することである。
2.内容	<p>下記の選択基準を満たした論文について調査を行った。①鍼灸マッサージに関する臨床試験である、②対象がスポーツ選手または症状がスポーツや運動に起因または関連している。③研究デザインがランダム化比較試験(randomized controlled trial: RCT)、準ランダム化比較試験(quasi-randomized controlled trial: quasi-RCT)、クロスオーバー比較試験である。④英語または日本語で報告されている臨床研究である。論文の検索には、PubMedと医学中央雑誌Web版の 2つのデータベースを用いた。スクリーニングは、データベースによる検索後、検索担当者によって、各データベース間の重複論文を削除し、タイトルやアブストラクトから明らかに選択基準を満たさないものは除外した。その後、構造化抄録作成の過程で選択された対象論文を吟味し、最終的な選択、除外を決定した。</p>

<b>3.成果/考察</b>	<p>65 編の論文を抽出し、分析を行った。RCT の研究のうち、介入方法が鍼による研究が 67.3%、マッサージによる研究が 29.1%で、鍼の研究の方が多いたことが明らかとなった。対象者の合計は、1,734 人であった。スポーツ選手を対象とした論文は 24 編であった。スポーツ競技種目は、トライアスロン 7 編が最も多かった。対象者のスポーツ外傷、障害に関する症状または疾患は、疲労 5 編が最も多かった。介入方法は、円皮鍼 (20 編) が最も多く、次いでマッサージ (15 編) と続いた。アウトカムでは、血液成分 (26 編) を指標としている研究が最も多かった。本研究から得られた結果は、今後のスポーツ選手や選手を支援する関係者をはじめ、国民にむけて鍼灸の有効性、有用性を発信するための意義のある基礎的資料となるであろう。</p>
----------------	--